

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	山田町家庭教育支援チーム (呼称:BlessU(ブレスユー)) URL: https://mothers-blessu.org/index.html?utm_source=chatgpt.com
②活動拠点	リタニティハウス (岩手県下閉伊郡山田町中央町 10-2)
③活動範囲	岩手県下閉伊郡山田町及び周辺沿岸地域
④組織体制	<u>3 人</u>
⑤活動開始年度	2025 年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 代表理事 中居知子 (TEL)0193-65-8286 (E-mail)t.nakai@mothers-blessu.org

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☒ 保護者等への地域の居場所づくり ☒ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) ☒自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐ その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☒ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☒ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容

【具体的な活動内容】

本チームでは、岩手県沿岸部のひとり親家庭を中心に、子育てと生活、就労を一人で抱え込みやすい状況を踏まえ、学びの場・居場所・就労につながる支援を組み合わせた家庭教育支援を継続的に実施している。

① 就労・学習支援(デジタルスキル研修)

就労に必要な基礎的なデジタルスキルから、プログラム修了後に提携先からの業務委託に対応できる実務的な PC スキルまでを、段階的に学べるカリキュラムを実施している。

1 期あたり約 15 名を上限とした少人数制で、半年間・計 11 回の研修を行い、理解度や習熟度を確認しながら進行している。

また、講座内だけでなく、Slack 等を活用した質問対応や補足支援を行い、学習の継続を支える体制を整えている。

② 保護者等への地域の居場所づくり

活動拠点であるリタニティハウスを中心に、保護者と子どもが安心して集い、交流できる居場所づくりを行っている。

定期的な交流会や親子イベント、季節行事等を通じて、日常的に顔を合わせ、気軽に相談し合える関係性の構築を重視している。

また、託児や子どもの居場所機能を併設することで、保護者が学習や就労準備に取り組める環境を整えている。

③ 関係機関・企業との連携

行政、企業、支援団体等と連携し、業務委託や情報提供、相談対応などを組み合わせた支援体制の構築を進めている。

地域内外の関係者との接点を持つことで、参加者の就労機会創出や支援の幅を広げている。

④ アウトリーチ型家庭教育支援の実施

リタニティハウス(拠点)への来所や行政窓口の利用に心理的・物理的な負担(移動手段の確保が難しい等)を感じる保護者に対し、アウトリーチ型の家庭教育支援を実施している。

具体的には、岩手県沿岸部特有の地理的状況や、ワンオペ育児・多忙により孤立しがちなシングルマザー等の保護者に対し、Slack 等のオンラインツールを活用した個別相談や情報提供を 24 時間体制(非同期型)で受付・対応し、必要に応じて関係機関への相談同行や専門支援機関との橋渡しを行っている。

また、保護者が孤立を深めないよう継続的な声掛け(チャット伴走)や寄り添い支援を行い、安心して学習や就労準備に取り組める心理的環境づくりに努めている。

	さらに、デジタルスキル研修(半年間・計 11 回)への参加を継続できるよう、家庭状況や体調不良、子どもの急病、または就労等の事情により現地(リタニティハウス)での参加が難しい場合でも、オンラインでのリアルタイム受講を可能とする体制を整えている。 講座内容はアーカイブ動画として受講生限定で共有し、後日視聴による自主学習を可能としているほか、Slack 等を通じた個別フォローアップ(課題添削や疑問点の解消)を行うことで、学習機会の確保や途中離脱の防止につなげている。 加えて、地域の保育所や小学校、行政窓口等へプログラム案内のチラシ配布・設置を定期的に行い、情報が届きにくい当事者層へ直接支援情報を届けている。実際にこのチラシ配布をきっかけとして、潜在的な相談ニーズの掘り起こしやプログラム参加につながるケースが生まれている。
④活動の成果 (活動実績がある場合)	※第 4 期は現在進行中のため、以下の成果は主に第 1 期～第 3 期の実績である。 ① 就労・収入に関する成果 第 1 期から第 3 期までに実施したプログラムには、実数 40 名(40 世帯)のシングルマザーが参加した。 本プログラムは、1 期あたり約 15 名、半年間・全 11 回のカリキュラムで構成されており、延べ参加者数は 440 人(40 名×11 回)にのぼる。 このうち、20 名が WEB 関連業務等の在宅業務に移行し、提携先からの業務委託による就労を実現している。在宅で業務に取り組むことで、子育てと両立しながら収入を得る選択肢が具体化し、就労に対する心理的ハードルの低下につながった。 ② 学習・意識面での成果 3 期中間に実施したアンケートでは、講座内容に対する理解度は 5 段階評価で平均 3.7、習熟度は平均 4.4 となり、デジタルスキルの定着が一定程度確認された。 また、受講後アンケートでは ● PC 業務への抵抗感が減った ● 就労や学びに前向きになった といった回答が多く、学習に対する自己効力感や就労意識の向上が見られている。修了後も自主的にスキル向上に取り組む参加者が増加しており、単発的な研修にとどまらない行動変容が確認されている。 ③ 家庭・生活面への波及効果 リタニティハウスを拠点とした活動では、保護者の参加に加え、子ども同伴での利用も多く、仮に各世帯が子ども 2 名を同伴した場合、子どもの参加は延べ 880 人(40 世帯×2 名×11 回)に相当する。 参加者からは、

	● 母親が学ぶ姿を見て、子どもが学習に関心を示すようになった ● 親子の会話が增えた ● 心理的な余裕が生まれた といった変化が、アンケートの自由記述や日々の相談記録から報告されている。託児や居場所の提供を含めた支援が、家庭全体の安定や子育て環境の改善につながっている。 ④ 地域への波及と基盤形成 継続的な活動と情報発信により、地域内外での認知が進み、行政・企業・関係団体との連携実績が蓄積されている。 具体的には、企業や関係団体との接点が増加し、業務委託や視察、登壇依頼などにつながっている。 また、相談対応やイベント参加を通じて、地域におけるシングルマザー支援の相談・受け皿としての役割が徐々に認知されつつあり、今後の継続的な支援体制構築に向けた基盤が形成されている。 ⑤ アウトリーチ支援による成果 アウトリーチ型支援を継続的に展開することで、従来の拠点集合型(来所型)の支援のみでは接点を持つことが難しかった、潜在的に困窮・孤立している保護者との初期接点の形成につながっている。 Slack 等を用いた時間・場所を選ばない継続的な個別フォローとチャットでの伴走支援により、第1期から第3期までの受講生の受講継続率(途中離脱の防止)の向上や、一人で悩みを抱え込むことによる孤立感の軽減に大きく寄与している。また、オンラインリアルタイム参加およびアーカイブ配信を体系化したことで、子育てや就労、沿岸部の移動負担等の事情を抱える保護者であっても、個々のライフスタイルに合わせて継続的に受講・学習できるようになり、教育・就労機会の確実な担保へとつながっている。 さらに、保育所や学校等への細やかな周知活動(チラシ配布等)を通じて、地域内で信頼できる支援情報へ直接アクセスできる保護者が増加しており、口コミやチラシをきっかけとした講座への新規参加や、リタニティハウスでの相談利用・居場所利用へとつながる好循環の事例も生まれている。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☐ 文部科学省補助事業(事業名:) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☐ 地方公共団体単独事業として実施 ☐ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☒ その他の支援により活動を実施 (一般社団法人グラミン日本 休眠預金活用事業)